〈 2016年6月4日(土)午前 〉

			A会場 ： 41教室		B会場 ： 42教室		C会場 ： 51教室		D会場 ： 52教室		E会場 ： 53教室
9:00 10:00			受付								
10:00	1	中村香子	宮脇 幸生 大阪府立大学 なぜ彼女／彼らはFGCを続けるのか？ —エチオピア西南部農牧民ホールにおけるFGC廃絶と人々の抵抗—	佐川徹	石井 洋子 聖心女子大学 ケニア・ギクユ人移民の世帯調査 —アメリカ合衆国メリーランド州でのフィールドワークより—	阿部優子	中川 裕 東京大国語大学 ゲイ語の色彩語		フォーラム 「サバンナの住まい —ブルキナファソ、カッセーナの『伝統』と変容—」 清水 貴夫 広島大学 趣旨説明 中尾 世治 南山大学 屋敷の不均衡な変容 —ラングェロ村の村長の屋敷の経年変化— 伊東 未来 国立民族学博物館 家屋の装飾と住まいかたの変遷 —カッセーナ、ラングェロ村の女性たちの事例から— 小林 広英 京都大学 カッセーナ・土のイエをつくる技術 —ラングェロ村の伝統住居と在来建築技術— コメント： 亀井 哲也 中京大学		フォーラム 「アフリカ漁民文化の比較研究 —水環境保全レジームの構築に向けて—」 今井 一郎 関西学院大学 趣旨説明 稲井 啓之 近畿大学 半乾燥内水面における漁民文化 —カメルーン・ロゴーヌ川氾濫原の事例より— 田村 卓也 総合研究大学院大学 ケニア共和国の海村におけるカゴ漁 櫻井 恵子 東京海洋大学 マダガスカルにおける内水面漁業の現状 —アロチャ湖東岸域漁村の事例より— コメント： 飯田 卓 国立民族学博物館
10:15	2		林 愛美 大阪大学／日本学術振興会 「伝統」をめぐる価値の多元化に向き合う女性たち —ケニア・マサイのローカルな FGM廃絶実践に着目して—		近藤 有希子 京都大学 暴力を予感する「平和」 —ルワンダにおける現地調査の困難の経験から—		若狭 基道 明星大学／跡見学園女子大学／白鴎大学 ウォライタ語のn音				
10:30	3		有井 晴香 京都大学 エチオピア西南部マーレの女性のライフストーリー —近代学校教育の受容と解釈—		村橋 勲 大阪大学 難民居住地の食の経済 —ウガンダ、キリヤドンゴ難民居住地の事例—		牧野 友香 大阪大学 ベンバ語および周辺言語のテンス・アスペクト体系の概要				
10:45	4		阪本 公美子 宇都宮大学 子どもの生存をめぐる社会的要因の比較研究 —タンザニア3村328名の女性たちの視点から—		佐藤 滋之 早稲田大学 東アフリカの難民キャンプ収容政策 —移動の自由との相克—		沓掛 沙弥香 大阪大学／日本学術振興会 タンザニアにおける言語態度調査(3) —南部タンザニアにおけるフィールド調査から—				
11:00	5	西真如	井田 暁子 フランス国立社会科学高等研究院／国際協力機構 子どもが語る「痛み」の経験 —セネガル共和国ダカール市の小児科病棟における子ども、近親者、医療者の相互作用に関する質的分析—	鈴木裕之	関野 文子 京都大学 女性による食物分配からみる狩猟採集社会の社会関係	竹村景子	髙橋 朝晴 京都大学 ルワンダにおける英語の重要性 —仏語及びキニヤルワンダ語との比較を通して—	竹沢尚一郎		佐久間寛	
11:15	6		岡野 英之 立命館大学 エボラ出血熱の拡大と人々の対応 —シエラレオネの事例から—		彭 宇潔 京都大学 カメルーン東南部に暮らす狩猟採集民バカの刺青実践 — 施術場面に見られる相互行為に注目して—		小野田 風子 大阪大学 タンザニア人作家E・ケジラハビによる望郷の詩を読む —独立後の時代と共に変化する作者の故郷への想い—		ウスビ サコ 京都精華大学 サハラ交易主要都市の世界文化遺産データベース構築と保存・修復の実態 —その② ジェンネとトンブクトゥの修復における無形文化の役割—		藤本 麻里子 京都大学 ザンジバル産ダガーの流通と消費 —コンゴ民主共和国、ルブンバシ調査予備報告—
11:30	7		坂井 紀公子 京都大学 ウガンダ北部で流行する「うなづき症候群」の患者家族による住民組織の活動 —“ALSONS”を事例に—		松平 勇二 日本学術振興会 T. マクウィクウィの音楽活動 —ジンバブエ・ダンスホール・レゲエの流行—		村田 はるせ コンゴ共和国の作家エマニュル・ドンガラ (Emmanuel Dongala)の小説『狂犬ジョニー (*Johnny chien méchant*)』での子ども像 —考え、判断する子ども—		川田 順造 神奈川大学 当事者にとっての歴史・研究者にとっての歴史		中村 亮 福井県里山里海湖研究所 タンザニア南部キルワ島にみるスワヒリ海村経済の変化
11:45	8		善積 実希 京都大学 ケニア・サンブル社会における身体障害者の日常生活とその支援		古謝 麻耶子 沖縄県立芸術大学 国家形成のための文化政策と芸能フェスティバル —モザンビークにおいて社会主義時代に行われた2つのフェスティバルに着目して—		砂野 幸稔 熊本県立大学 識字詩集が伝えるセネガル農村女性の声		小川 了 アフリカ学会員 フルベの行動規範再考 —ニーチェによる—		伊藤 紀子 農林水産政策研究所 ケニア稲作農村における農民の生業と社会関係
12:00 13:30			昼食・評議員会(本館6階61教室)								

〈 2016年6月4日(土)午後 〉

			A会場 ： 41教室		B会場 ： 42教室		C会場 ： 51教室		D会場 ： 52教室		E会場 ： 53教室
13:30	9	石山俊	芝田 篤紀 京都大学 ナミビア共和国ブワブワタ国立公園における生業活動の自然環境に対する影響と役割	山田肖子	澤村 信英 大阪大学 ケニア・ナイロビのスラムにおける無認可低学費私立校の運営実態 —キベラの初等学校の事例—	池野旬	落合 雄彦 龍谷大学 シエラレオネの土地制度にみられる二元性と複雑性		フォーラム 「アフリカの『障害と開発』」 亀井 伸孝 愛知県立大学 趣旨説明 亀井 伸孝 愛知県立大学 セネガルにおける障害者の職業訓練と生業 —技能伝承におけるふたつのモデル— 戸田 美佳子 国立民族学博物館 コンゴ川の国境ビジネスからみる障害者と国家の関係 宮本 律子 秋田大学 ケニアにおける障害者の法的権利と当事者運動 —ろう者の運動をとりかかりとして— 西 真如 京都大学 エチオピアの障害者政策 —開発主義体制下の当事者団体の活動— 牧野 久美子 アジア経済研究所 南アフリカの障害者政策と障害者運動		フォーラム 「アフリカの少数民族による文化/自然の観光資源化と『住民参加』の新展開」 岩井 雪乃 ほか 早稲田大学 趣旨説明 中村 香子 京都大学 「伝統」を見せものに「苦境」で稼ぐ —ケニア民族文化観光村の事例から— 目黒 紀夫 広島市立大学 ケニア南部マサイランドにおける新展開 —「観光保全エンタープライズ」をめぐる議論と実際— 西﨑 伸子 福島大学 エチオピア西南部の大規模開発における民族文化観光の意義 —農耕民アリによる文化の観光資源化のプロセスに着目して— 松浦 直毅 静岡県立大学 住民参加によるエコツーリズム開発を目指して —ガボン、ムカラバ・ドゥドゥ国立公園の事例— コメント: 松田 素二 京都大学
13:45	10		ロベル ハイレ ゲブル 大阪大学 Historical Ecological Configuration of Qohaito Plateau: Gulf of Zula Corridor through Vertical Archipelago Model		大塲 麻代 帝京大学 低所得層における学校選択 —ケニア共和国ナイロビ市内のキベラ地域を事例に—		鍋島 孝子 北海道大学 政府と農村の二元的政策決定論 —水と衛生を巡る対立と統合の政治史—				
14:00	11		藤岡 悠一郎 ほか 東北大学 モパネ植生帯の共通性と多様性 —ナミビア北部を事例として—		水野 一晴 京都大学 ナイロビのスラム街キベラのトイレ環境と住民生活		味志 優 東京大学 政治家の汚職の発覚は有権者の投票行動に変化をもたらすのか？ —タンザニア2010年国政選挙を事例に—				
14:15	12	池谷和信	飯田 恵理子 京都大学 タンザニア、ウガラ地域における野生動物および地域住民の環境利用	平野美佐	宮内 洋平 立教大学 ヨハネスブルグの都市再生プロジェクトから見る構造的不正義	落合雄彦	モハメド オマル アブディン 東京外国語大学 スーダン2015年4月選挙から見えるバシール体制内の権力構造の変化 —州知事選挙を中心に—				
14:30	13		大石 高典 東京外国語大学 森のなかの近代史 —カメルーン東南部・ジャー川流域の廃村の歴史生態学—		森口 岳 東洋大学／亜細亜大学 マルチ・サイトな自己と生存戦略 —カンパラ、スラム住民のライフヒストリーの事例から—		粒良 麻知子 アジア経済研究所 *"Umoja ni Ushindi* (Unity is Victory)" : Management of Factionalism in Tanzania's Dominant Party				
14:45	14		田 暁潔 京都大学／日本学術振興会 日常の意外な経験から学ぶ在来生態知 —ケニア牧畜民マサイの子供たちの生活場面に着目して—		八木 達祐 立命館大学／日本学術振興会 観光客との遭遇を日常化する —ケニア・ナイロビのスラムツアーに関する人類学的研究—		阿久津 昌三 信州大学 大統領のスピーチ —Kwame Nkrumahの独立式典の事例を中心として—				
15:00 15:15			（移動・空き時間）								
15:15 16:15			ポスターコア （本館4階アトリウム）								
16:15 16:30			（移動・空き時間）								
16:30 17:45			総会・研究奨励賞授賞式 （大講堂）								
17:45 18:00			（移動・空き時間）								
18:00 20:00			懇親会 （食堂棟3F）								

〈 2015年6月5日(日)午前 〉

			A会場 ： 41教室		B会場 ： 42教室		C会場 ： 51教室		D会場 ： 52教室		E会場 ： 53教室
8:30 9:00			受付								
9:00	15	児玉由佳	高村 伸吾 京都大学／日本学術振興会 紛争による分断、そこから生じる変革 —コンゴ東部に生成される新たな流通構造—	藤岡悠一朗	柴田 誠 ほか 京都大学 土壌生態系の元素循環プロセスから見た森林—サバンナ境界域の持続的な農地利用 —JST/JICA・SATREPSカメルーン森林—サバンナ持続性プロジェクトの成果から(1)—	清水貴夫	盛 恵子 名古屋大学 ティジャーニーヤの分派ニアセンのガーナにおける現状と問題	荒木美奈子	杉村 和彦 福井県立大学 東アフリカ農牧民社会の現代的変容：現金経済・都市化・土地問題①		フォーラム 「東アフリカ牧畜社会における人道支援枠組みのローカライズ」 湖中 真哉 静岡県立大学 趣旨説明 孫 暁剛 京都大学 ケニア北部の牧畜民を対象とした食料援助の実態と問題点 波佐間 逸博 長崎大学 紛争後のウガンダ・ナイル系牧畜社会における創造的ヘルスケア・ローカリティ 米川 正子 立教大学 対テロ戦争における人道支援 —東アフリカとアフリカの角の事例から— 村尾 るみこ 立教大学 アフリカ南部農村における緊急人道支援の影響
9:15	16		藍澤 淑雄 秋田大学 タンザニアの零細鉱業 —ゲイタ零細金鉱業における主要アクターの結びつき—		平井 將公 ほか 京都大学 非木材森林産物の持続的利用 —JST/JICA・SATREPSカメルーン森林—サバンナ持続性プロジェクトの成果から(2)—		苅谷 康太 東京外国語大学 初期ソコト・カリフ国における背教規定の確立		杉山 祐子 弘前大学 東アフリカ農牧民社会の現代的変容：現金経済・都市化・土地問題② —家計簿にみる現金の必要と現金づかいの諸相—		
9:30	17		牛久 晴香 長崎大学 ガーナ北東部の輸出向け手工芸品取引にみられるローカルな社会規範		サール サリオウ パパ ほか 京都大学 持続的なキャッサバ生産・加工・販売システムの備えるべき条件 —JST/JICA・SATREPSカメルーン森林ーサバンナ持続性プロジェクトの成果から(3)—		藤井 千晶 日本学術振興会 ザンジバルにおけるイスラーム組織ウアムショの活動		坂井 真紀子 東京外国語大学 東アフリカ農牧民社会の現代的変容：現金経済・都市化・土地問題③		
9:45	18	高橋基樹	福西 隆弘 アジア経済研究所 古着の国際貿易 —貿易パターンの分析—		荒木 茂 ほか 京都大学 カメルーンにおける森林ーサバンナ持続性モデルの提出 —JST/JICA・SATREPSカメルーン森林ーサバンナ持続性プロジェクトの成果から(4)—		朝田 郁 京都大学 海をわたるハドラミー —東アフリカ・ザンジバルを目指したアラブ移民の旅—		鶴田 格 近畿大学 東アフリカ農牧民社会の現代的変容：現金経済・都市化・土地問題④		
10:00	19		小川 さやか 立命館大学 「負債」から「借り」へ —タンザニアにおける携帯を通じた送金システム（M-Pesa）を事例に—	安岡宏和	大月 義徳 ほか 東北大学 中央ケニア半乾燥牧畜地域の地形変化と自然資源利用			佐藤靖明	足達 太郎 東京農業大学 マラウイ農村における新規導入野菜栽培にみられる「創意工夫」		
10:15	20		マスワナ ジャンクロード 筑波大学 中国の景気低迷がアフリカ経済に与える悪影響		大谷 侑也 京都大学 ケニア山山麓湧水の涵養標高の推定	佐藤章	杉下 かおり 多摩大学 日本人とポスト・アパルトヘイト南アフリカ —「名誉白人」再考—		藤本 武 富山大学 野生植物と栽培植物の利用の比較分析 —エチオピア農耕民マロの事例—		
10:30	21	西浦昭雄	杉本 喜美子 甲南大学 アフリカにおける金融深化と経済成長		門村 浩 東京都立大学 地球変動の中のアフリカ —2015/16年EL NIÑOシーズンの顕著な気象・水文イベント—		藤井 広重 東京大学 南スーダンにおけるハイブリッド刑事法廷設置の試み —内と外の論理からみたアフリカ連合関与の意義—		上田 元 一橋大学 タンザニア・メル山地域の農地林業と製材活動の実態		フォーラム 「日本ーアフリカ関係史研究の課題と展望（再論）」 北川 勝彦 関西大学 趣旨説明 溝辺 泰雄 明治大学 日本ーアフリカ関係と1960年代の反原水爆運動 —1962年アクラ会議の分析に基づいて— 北川 勝彦 関西大学 国際アフリカニストの運動における日本とアフリカ —TICADプロセスの実施基盤強化への途— スカーレット コーネリッセン ステレンボッシュ大学 アフリカにおける開発の新展開とTICAD クエク アンビア リーズ大学 日本の開発援助理念とガーナのヘルスケア
10:45	22		石原 豊一 日本アフリカ学会 スポーツを通じた開発援助の現状とその課題 —アフリカにおける野球普及活動を事例として—		藤田 知弘 京都大学 熱帯山地雨林の拡大過程における止まり木効果の重要性		増古 剛久 一橋大学 オガデン戦争の再検討		伊谷 樹一 京都大学 タンザニア南部における燃料事情と植林 —牧畜との関係をめぐって—		
11:00	23		入谷 聡子 神戸大学 エチオピア農村世帯の干ばつからの家畜資産の回復過程	保坂和彦	古市 剛史 京都大学 国境を超える絶滅危惧種 —類人猿ボノボをめぐる事例から—		川口 博子 京都大学 国際刑事裁判所に対する地域住民による紛争経験の語り —ウガンダ北部紛争をめぐるドミニク・オグウェン裁判を事例に—		フォーラム 「アフリカとグローバル・ヒストリー」 竹沢 尚一郎 国立民族学博物館 10－11世紀のガオ（西アフリカ）で出土した中国製磁器 鈴木 英明 長崎大学 沿岸部スワヒリ世界の形成 —内陸アフリカとその他の世界とのあいだ— 池谷 和信 国立民族学博物館 アフリカの環境史とグローバル・ヒストリー —象牙、ダチョウの羽根、キツネの毛皮— 島田 竜登 東京大学 グローバル・ヒストリー研究におけるアフリカ		
11:15	24		出町 一恵 ほか 東京外国語大学 Vocational training and employment of urban youth in Ethiopia		橋本 千絵 ほか 京都大学 ウガンダ共和国カリンズ森林の野生チンパンジーで観察された子殺しについて	村尾るみこ	須永 修枝 東京大学 「ソマリランダー」による紛争調停の試み —「ソマリランド平和委員会」（1995年～1997年）の取り組み—				
11:30	25	澤村信英	倉岡 哲 ほか 元青年海外協力隊員 ギニアの小学校における農業・環境の実践教育		五百部 裕 ほか 椙山女学園大学 ウガンダ、カリンズ森林におけるロエストモンキーの肉食・食物分配行動		大山 修一 京都大学 ニジェールにおけるボコ・ハラムのテロ活動に対する人びとの怒りと恐怖感				
11:45	26		関谷 雄一 ほか 東京大学 ニジュールの小学校における農業・環境の実践教育		中務 真人 ほか 京都大学 ナイロビで初めて発見されたアウストラロピテクス		飛内 悠子 大阪大学／日本学術振興会 地域形成とモビリティ —北部ウガンダ、アジュマニ県を事例に—				
12:00	27		堀尾 藍 独立行政法人 国際交流基金 地域住民の特性が及ぼすコミュニティースクールへの影響 —ザンビアを事例として—								

〈　2015年6月5日（日）午後　〉		
13:10 16:00		公開講演会 （大講堂）

ポスター発表（コアタイム：6月4日（土）15:15～16:15）

本館4階アトリウム

P1 村津　蘭 京都大学 妖術師化する教祖たち ―ベナンの新宗教とそれをめぐる反応に着目して―	P2 吉田　優貴 明治学院大学 日常生活の中にあるダンス ―ケニアの聖の子供の事例分析から―	P3 辻川　寛　ほか 東北文化学園大学 中新世ケニアのハイラックス化石について	P4 一條　洋子　ほか 東京農工大学 ケニア西部、アヘロ地域における灌漑稲作プロジェクトのスピルオーバー効果	P5 榎並　ゆかり 同志社大学 ムリッド共同体の社会的ネットワークに関する研究 ―「新興」の交易ディアスポラが構築するトランスナショナルな空間とは―
P6 森尾　貴広 筑波大学 日本-アフリカ大学連携ネットワーク ―大学間ネットワーク構築によるアフリカ諸国との組織的学術交流の推進―	P7 手代木　功基　ほか 総合地球環境学研究所 2014／2015年の干ばつがナミビア北中部のウシ放牧にもたらした影響	P8 岡安　直比　ほか WWFジャパン／京都大学 コンゴ民主共和国、バンドゥンドゥ州北部のボノボ個体群 ―アフリカ熱帯雨林南西端、サバンナ生態系の生息環境と地域コミュニティ―	P9 安岡　宏和　ほか 京都大学 カメルーン東南部における野生ヤム群生パッチの生物系統地理学的分析	P10 望月　良憲 静岡県立大学 ウガンダの難民居住地における南スーダン難民の生活戦略
P11 中川　千草 龍谷大学 ギニア沿岸部の塩づくり ―経営主体の違いにみる選択肢の拡大の可能性―	P12 重田　眞義 京都大学 アフリカ在来知を活用した農村の内発的発展に資する実践的地域研究	P13 石山　俊 総合地球環境学研究所 サハラ・オアシスの水問題と現代的変化 ―アルジェリア・サハラ、イン・ベルベルの事例―	P14 八塚　春名 日本大学 気乗り薄なホスト ―タンザニア、狩猟採集民ハッツァによる民族文化観光―	P15 島田　将喜 帝京科学大学 野生チンパンジーの遊びのタイプ・遊び場・遊びの集団の関係
P16 泉　直亮 京都大学 富者として農村に生きる牧畜民 ―タンザニア・ルクワ湖畔におけるスクマとワンダの共存―	P17 古澤　礼太 中部大学 植民地起源都市アクラのトウモロコシ祭り ―ガーナ共和国ガ民族のホモウォ祭りに見るトウモロコシの共食を通じた地域社会の紐帯維持―			